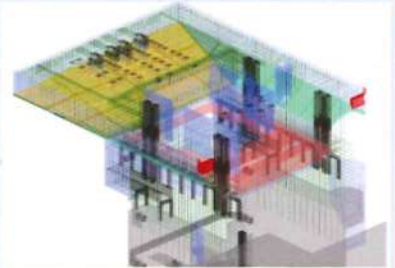


第19回 おおいたビジネス オブ ザ・イヤー

受賞企業	株式会社 コイシ	
代表者	代表取締役 小原文男	
所在地	大分市大字横尾3617番地2	
資本金	2000万円	
従業員数	57人	
創業	昭和62年	
業種	建設業（土木工事測量、3D設計、3Dモデル作成）	
業容	<p>当社は、土木測量を専門分野として33年前に創業、主な業務内容は一般工事測量、プラント設備測量、i-Construction（ICT活用工事に伴う測量）である。</p> <p>平成8年、大分県初のベンチャー企業認定を受け、その後も斯業に係る多数の受賞歴があり、主力の測量業務はもとより、土木支援商品の開発販売、3Dモデル作成など事業を展開している。</p>	
経営の創意工夫	<p>土木現場の作業者の負担や経費の軽減をカタチにする「現場の役に立つ、現場が楽になる」ことが経営の基本理念であり、当社の商品開発・創意工夫の原点。取引先は全国に亘り、上場企業を含む大手建設会社からの受注も多数。</p> <p>2019年の国土交通省 i-Construction大賞[*]では、ドローンを活用した3D化技術により優秀賞受賞、国が強力に推進する i-Constructionにおいて、当社の先駆的な取り組みが高く評価され、全国表彰に至った。</p>	
地域社会への発展への貢献度	<p>女性が働きやすい環境を整えることで、雇用機会の増大や子供を産み、育てやすい環境整備ができるとの思いから、業界ではいち早く女性従業員を対象にフレックスタイムを導入。</p> <p>また、女性による3DCAD技術の習得、地域女性の雇用にも成功しており、従業員のうち女性比率は46%と建設業界の中では高い比率を実現、主婦の能力活用と女性が活躍できる場の提供に積極的に取り組んでいる。</p> <p>人材育成の面では、コイシ塾、子どもコイシ塾、土木事業者の経営向上のための勉強会「未来土木」などを主催し、土木経営への哲学の重要性を説きつつ、土木事業者の経営環境の向上に尽力している。</p> <p>さらに、小原氏を総括研究代表者として「三次元技術を用いた地域社会への貢献を目的とした高度測量技術に関する研究開発」をテーマとした経済産業省サポイン事業の採択を受け、コストが高く、知識や操作経験が必要であることから、導入が困難であった中小土木事業者においても、容易に三次元データを処理、活用することを可能とし、情報化施工を広く汎化させる事業にも積極的に取り組んでいる。</p>	
総評	<p>高い技術力をベースに先駆的に建設現場の生産性の向上に取り組み、その活動が広く評価を得ている。財務面では、3期連続の増収増益。収益性、生産性は業界平均を大きく上回り、健全経営を実践。経営者の資質、経営の創意工夫、従業員のスキル、地域社会発展への取り組み等 経営に必要な要素を十分に備えており、他社の範とするに相応しいと評価され、今回の受賞となった。</p>	

【ステップ図：五ヶ山ダム取水塔の3Dモデル】



【角牟礼城跡地の3Dモデル図】

【よろこびの声】

社内を見渡してみると、修正すべきところがいろいろとあるのですが、未来の会社に近づけるように、努力していこうと思っています。若者にとっても遣り甲斐ある仕事にしていくことが、未来の充実感ある人生につながっていくと信じています。この度は、素晴らしい賞を頂き誠にありがとうございました。

^{*}国土交通省 i-Constructionとは
社会資本整備の担い手である建設業が抱える人手不足や労働問題等の課題解決のため、ICT等の活用により現場作業の改善・生産性向上を強力に進める国の取り組み



